

広報委員会報告

2015年5月1日

文責：飛松省三

1. 本間前委員長の後を受けて、飛松省三(九州大学、委員長)、定藤規弘(生理学研究所、副委員長)、上田陽一(産業医科大学、委員)の3名で広報活動を行うことになった。

2. 水澤理事長から示された広報委員会の業務は、

- 1) HPのコンテンツのチェック、英語版作成、
- 2) 脳科連のパンフレットの改訂、英語版作成、
- 3) 脳科学関連 学会連合を社会に紹介、PR、
- 4) 脳科学研究を社会に紹介、PR、
- 5) 国民からの質問に対する回答、
- 6) その他

であった。これを基に3名で活動方針に関するメール会議を行った。

3. 今後の活動方針

(1) 上記1~4)に関しては、評議員会での活動方針の決定を踏まえて、事務局と相談しながら進める。特にHPについては英語版作成の範囲(ニュース・お知らせまで含むのか、その際の手稿は日英版ともに用意していくのか、それとも翻訳に出すのか、実際の作業者は誰か、更新頻度はどの程度か)等、メンテナンスの具体的な手順を押さえておく必要がある。先ず始められることは、脳科連に参加する学会の簡単な概要(400字程度)をアップすることで、脳科連の意義を社会に発信できると思われる。

(2) 5)に関しては、質問を受けた場合、誰が受けて、誰が(どの学会が)どう回答するか、誰が責任を持つかなど、種々の問題点があると判断され、この件に関しては保留することになった。

(3) その他の活動として、1) 脳科連の所属学会の年次総会で脳科連のブースを出展してアピールする(パンフレットを置く)、2) 医学会総会(終わったばかりなので4年後になりますが)などの大きな会議で脳科連のブースを出展、3) 出前講義、サイエンスカフェのような企画を持ち回りで実施する(オーガナイズを脳科連で行う)、4) 脳科連の所属学会に“脳科連に加入しているメリットは?”“期待していることは?”などのアンケートを行う、ことが考えられた。